

科目名	言語表現演習Ⅰ-1		科目コード	1311	
開講学科	文芸学科	単位数	2	形態	演習
教員名	福井慎二 出口逸平				
授業の目的及びテーマ					
あらゆる芸術に深いかわりをもつ「言語表現」の力を、文学・評論から映画・演劇までジャンルを超えた幅広い視野からとらえ、考察を深める。					
授業概要					
関西を舞台にした明治以降の小説・映画・演劇作品を対象に、その魅力と特徴を具体的に学び、そこで得られた知見や感覚を、自らの言葉で表現することを目指す。					
授業計画					
<p>第1回：現代文学史における〈大阪的なもの〉 関西の文学と風土のかかわりを、東京と大阪を対比的に扱う坂口安吾の評論『大阪の反逆 織田作之助の死』に基づいて私小説を批判する〈大阪的〉戯作性を、織田作之助・太宰治の評論と交えて確認する。</p> <p>第2回：織田作之助『夫婦善哉』 大阪物を代表する織田作之助の『夫婦善哉』を取り上げ、大阪らしさを確認する。『夫婦善哉』の2つの映画を見比べて言語表現と映像表現の違いや解釈の広がりを感じさせる。</p> <p>第3回：谷崎潤一郎『春琴抄』その1 関西に移住して大きな影響を谷崎は受けたが、『春琴抄』は大阪を舞台にしても大阪物とは異なる谷崎独自のものになっていることを確認する。</p> <p>第4回：谷崎潤一郎『春琴抄』その2 『春琴抄』の2つの映画を見比べて言語表現と映像表現の違いや解釈の広がりを感じさせる。</p> <p>第5回：レポート作成 文学と風土の関わり、あるいは『夫婦善哉』または『春琴抄』について論じてもらう。</p> <p>第6回：演劇のなかの関西 能・狂言から文楽・歌舞伎まで、古典芸能の世界は京大阪を舞台にしたものが多い。さらに近代・現代にいたる関西演劇の特質を考えてみたい。</p> <p>第7～9回：関西を舞台にした演劇作品の鑑賞と分析 関西を舞台にした演劇作品を、上演テキストと舞台DVDによって鑑賞し、そののち互いに感想や疑問点を話し合いながら、作品分析を深めていく。</p> <p>第10回：レポート作成 授業で取り上げた演劇作品について、自らテーマを設定してくわしく論じてもらう。</p> <p>第11回：大阪出身の芥川賞作家に学ぶ／芥川賞とはどんな文学賞か 日本の文学賞を紹介して芥川賞の位置づけをし、芥川賞の抱える問題点を解説し、文学賞を受賞することでステップアップするように受講者の創作活動の励みにする。</p> <p>第12回：町田 康『けものがれ、俺らの猿と』 町田は2度芥川賞候補となり、3度目で受賞した。芥川賞の選評を受けて町田がどう対応・変化して受賞出来たかを、『くっすん大黒』・『けものがれ』・『きれぎれ』を比較して確認する。また芥川賞選考委員が何を求めているか選評を通じて明らかにし、受講者が文学賞を受賞するために役立てられるようにする。『けものがれ』の映画を見て言語表現と映像表現の違いや解釈の広がりを感じさせる。</p> <p>第13回：宮本 輝『蚩川』その1 宮本は作家デビューして直ぐに立て続けに文学賞を受賞して恵まれた出発をしている。しかし目指すもの・創作姿勢に問題があり、その後の受賞歴は芳しくない。宮本が通俗性を評価しているにもかかわらず自ら通俗に徹せず反俗を気取るといった問題点を『泥の河』・『蚩川』・『道頓堀川』の選評・文芸時評を通じて確認する。</p> <p>第14回：宮本 輝『蚩川』その2 『泥の河』・『蚩川』の映画を見て言語表現と映像表現の違いや解釈の広がりを感じさせる。</p> <p>第15回：レポート作成 レポート課題は町田康または宮本輝の作品を論じるか、あるいは町田康・宮本輝から創作する上で学んだこと、今後文学賞を自分が獲得するためにすべきことを書いてもらう。</p>					
テキスト	授業中に配布するプリント		参考文献		
評価方法：					
面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					

科目名	言語表現演習Ⅰ-2		科目コード	1311	
開講学科	文芸学科 教職課程	単位数	2	形態	演習
教員名	西岡陽子・古江尚美・橋本章彦				
授業の目的及びテーマ					
日本文学とくに古典文学の世界を幅広い視点から概観する。					
授業概要					
説話文学や物語文学、文字史、国語史などの各方面から概観し、日本文学、とくに古典文学の特性を理解する。					
授業計画					
<p>第 1 回：日本文学史のうち古典文学の歴史を概観する。文学史の時代区分を概説する。</p> <p>第 2 回：文学の担い手（作者）と読者層の変化を通じて文学の時代性を考える。</p> <p>第 3 回：「浦島説話」を通じて時代ごとの変化とその理由を考える。</p> <p>第 4 回：『竹取物語』の原型的説話の考察と改作の跡を検証する。</p> <p>第 5 回：改作者の意図を理解した上で、新たな『竹取物語』を創る。</p> <p>第 6 回：文字史①神代文字とは？ 平田篤胤『神字日文伝』を読む。斎部広成『古語拾遺』には…。</p> <p>第 7 回：文字史②漢字伝来。上代人の創意工夫：『古事記』序文・『続日本紀』宣命・仏足石歌</p> <p>第 8 回：文字史③万葉集の表記と中古の仮名。『桂本万葉集』を読む。</p> <p>第 9 回：文字史④現代の仮名と変体仮名。文字史まとめ。</p> <p>第 10 回：文字史⑤写本『伊勢物語』を読む。いろいろな「ひらがな」を体験。</p> <p>第 11 回：文学作品と時代性を考える。</p> <p>第 12 回：文覚上人に纏わる悲劇の物語とその時代的展開（1）～『平家物語』から映画『地獄門』まで～</p> <p>第 13 回：文覚上人に纏わる悲劇の物語とその時代的展開（2）～『平家物語』から映画『地獄門』まで～</p> <p>第 14 回：文覚上人に纏わる悲劇の物語とその時代的展開（3）～『平家物語』から映画『地獄門』まで～</p> <p>第 15 回：文覚上人の悲劇の物語を現代に蘇らせるとするならばどのような物語が構想できるか。</p>					
テキスト	なし	参考文献	授業内提示		
評価方法：					
受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					